

主義の信条であろう。

以上の諸項の検討により次のように云うことができるであらう。

左伝は合理主義的な士君子の出現を告げると共に、尚巫的世界の怪奇を色濃く残している。この左伝を背景にしてみると、扁鵲伝は素問靈樞の世界に極めて近い。寧ろ相符合する所が多いと考えられる。

(横浜市・開業)

Ruggero Oddi と同括約筋の今日的意義

小野 慶 一

Ruggero Oddi は申すまでもなく総胆管・十二指腸接合部における括約筋を発見したイタリアの生理学者で、一八六四年七月二十日 Umbria 地方の中心城市 Perugia に生れた。一九八四年七月二十日はその生誕百二十年に当る記念日である。

一八八七年、彼は医学部四年在学中の研究論文にて彼の名を冠する括約筋を発見した。その後 Firenze に転じた後も同括約筋の生理学的意義について研究を継続し、今日胆道外科にて繁用される術中胆道内圧測定法の基礎をつくりあげた。

著者は一九八三、一九八四年再度にわたって Perugia を訪れ、彼の事跡について調査を行い、若干の知見を得たのでそのあらましについて報告したい。Perugia 市当局は彼

の業績顕彰の目的と生誕百二十年を記念して、Piazza Ruggiero Oddi (オッジ広場)を市内に建設中である。それらの経過についても述べてみたい。

(弘前大学医学部第二外科)

金・元時代における社会と医家の地位

山本徳子

金・元時代の医学は、その王朝名をつけて、いわゆる「金元医学」とよばれている。

この時期に、それぞれ特徴のある四大家(河間学派、易水学派)の学説が形成され、医学思想の発展があり、さらに、中国医学は金・元のころに一変したといわれている。

金・元は中国への侵入者である。金の河北侵入によって、宋王朝は滅ぼされ、宋の皇族が河南において帝位につき、南宋が建てられた。河北の支配者となった金王朝が元によって滅ぼされた後、南宋もまた滅ぼされて、中国は征服王朝の元の支配下におかれた。

このような時期にあつて、金・元の医家といわれている人達をみると、そのほとんどは中国人である。これらの人達について、『金史』方技伝の伝記をみると、科挙に合格